

## この萌芽に対して

新しい萌芽を見ることは楽しい。また、その伸びてゆく力を思うことは嬉しい。しかし、その柔らかさと、弱さを前にして怖ろしきなしにはいられない。識らずして踏みにじりはしないか、誤って手折りはしないか、圧えて歪めはしないか、気づかっては胸のおののくのを禁じ得ない。

自然とや、生長とや、自然の力とや、それはむこうのことである。こちらとしては、はらはらとする怖ろしさのみが残る。むこうの力に任せて、こちらの心づかいを忘れるのは、鈍感か、怠慢か、横暴かに外ならない。

可憐なる幼児たちに見るこの萌芽に対して、怖れ戦く心、そのこまやかさに幼児教育の良心がある。

(倉橋惣三選集第三卷 育ての心より)